

外国人に特化した農村体験ツアー
(株)BSC インターナショナル Tour du Lac 事業部 (滋賀県大津市)

【取組概要】

国内外からの観光で滋賀県の農山漁村地域を活性化したい。滋賀に住んでみたいと思う人に来てもらいたい。農業や起業に関心を持ってもらいたいという思いから、その仕組み作りができたかと考えていました。その手段として(株)BSC インターナショナルの下で、自然豊かな琵琶湖の景観を楽しみつつ日本の田舎の暮らしを体験する外国人向けツアーTour du Lac Biwa 事業を始めました。



地域の農家等の協力を得て、彼らの日常の生活スタイルを見てもらい、棚田、古民家、餅つきなどの文化、びわ湖、鮎ずし、地酒、匠の工房、様々なアート、朝宮茶の茶摘み、茶もみなどを体験してもらいます。

外国人に特化した田舎体験ツアーは、個人客、英語を話せる欧米人、ハイエンドクラスのプライベート(または少人数制)ツアーとして対応するため、参加者はH26年7月以降で10組程度ですが、ツアー参加者には、日本人が大切に受け継いできた暮らしを体験できて良かったと好評です。

【取組推進のポイント】

日本の農家の日々の暮らし、普通の生活を見てもらい、田舎の日常生活を体験できることが外国人には好評です。ツアーの添乗員は、地元在住のバイリンガル女性3名の外、彼女達の配偶者であるネイティブスピーカーの欧米人が翻訳監修やコースチェックなどを担当しています。また、パンフレットを英語で作成し、インターネット、旅行会社、京都のホテル・旅館・ゲストハウス等へ情報提供しています。



【課題】

課題は、情報発信力を強くすること、集客を拡大する方法を考えること、行政と協力し活動領域を広めていくことなどです。

【将来展望】

「短期～長期滞在したい客を呼ぶこと」、「フランス語など多言語に対応できるようにし、フランス人などにターゲットを広げること」、「農家の方とツアー参加者の信頼が得られ、かつ質の高いおもてなしの出来る優秀なバイリンガル人材を確保・育成すること」、「ツアーの受け入れ農家とその後継者を増やすこと」を目標にしています。また、例えばWWOOF活動などで、農家の仕事(田植え、稲刈り等)を手伝ってくれる人と農家を結びつける事業も展開したいと考えております。



地元伝統野菜を使用した純和風懐石料理で外国人観光客を受入れ
里湯昔話 雄山荘（滋賀県大津市）

【取組概要】

滋賀県大津市雄琴温泉の里湯昔話雄山荘は、少子高齢化、国際化を踏まえて、インバウンドの取組として、イスラム教徒（ムスリム）の誘致のため、平成26年5月にハラール認証を取得し、調理器具、食器等を区別し、認証に沿った食材を使ったムスリムフレンドメニューによる純和風会席料理の提供を始めました。



また、滋賀県の伝統野菜（とよ坊かぼちゃん、山田大根、杉谷なすび、弥平とうがらし等）や自家菜園の農作物を使った料理を提供し地産地消に取り組んでいます。

なお、イスラム教の礼拝のため、各部屋と宴会場にマットを敷き、足を洗う場所やコンパスを用意しています。

現在、ムスリムの客数は外国人客の1割未満ですが、外国人客総数は、24年3,289人、25年2,978人、26年5,600人です。円安状況もあり、26年12月頃から大幅に増え、それまで全客数の約4%だったものが8%に増加しています。



【取組推進のポイント】

中国人、韓国人の従業員各1名を雇用して、中国語、韓国語に対応しており、館内に英語、中国語、韓国語の案内表示もしています。

売店は27年1月以降、免税対応としています。

大阪市上海事務所、日本政府観光局(JNTO)上海事務所等と情報交換、マレーシアでの商談会参加、海外旅行会社との情報交換、視察受入れなどを行っています。

また、インターネットによる情報発信、英語、中国語、韓国語の3カ国語のチラシを作成し、旅行会社等に配布しています。

【課題】

ごく稀に大浴場において大声で話すなどの外国人がおられ、他の客に違和感を持たれないように、マナー等について注意書きを出す必要があります。

外国人客は、5人から6人設計の客室を1人や2人で1部屋使いたいという方が多いです。



【将来展望】

今後、ハラール認証に沿った料理によりムスリム客を増やすと共に、中国や欧米などの富裕層をターゲットに、日本文化に興味を示す質の高い外国人の受入れを増やしていきたいと考えています。

都市農村交流事業で海外の高校生の民泊を受け入れ
甲賀市都市農村交流推進協議会（滋賀県甲賀市）

【取組概要】

滋賀県甲賀市は、甲賀忍者発祥の地であり、甲賀流忍術屋敷、信楽焼、ミホミュージアム等の観光資源のほか、農業も盛んで、近江米、朝宮茶、土山茶の産地です。

甲賀市都市農村交流推進協議会は、市から都市農村交流事業の委託を受け、「忍者の里こうかで田舎体験」と銘打ち、中学生を中心に国内外の中高生を年間1,000人程度受け入れ農家民泊を実施しています。

これは、農村での生活体験や交流を通じた人間教育を目的としており、事前に登録している家庭に4人1組で宿泊し、共に生活（料理、農作業等）を体験するものです。

農家での農作業体験としては、苗づくり、田植え・定植、草刈、牛の世話、野菜の収穫・茶摘み、製茶、こんにゃくづくりなど、さまざまです。

外国人学生の受け入れ状況は、平成24年度22人（インド）8軒、26年度32人（台湾）8軒、27年度36人（マレーシア）10軒となっています。

【取組推進のポイント】

海外からの教育旅行生誘致については、近隣の滋賀県日野町や(公社)びわこビジターズビューローから情報提供を受け、国内外の旅行業者等と交渉し、受け入れを行っています。

受け入れ体制としては、現在約250軒の家庭が登録しており、毎年、受け入れのための研修会や安全対策についての研修会を実施しています。

また市内には3つのインターチェンジがあり、自動車ですら京都から30分、名古屋から1時間、電車であれば京都駅から1時間というアクセスの良さをPRした営業活動を行っています。

【課題】

各家庭での生活体験や農業体験のレベルをできるだけ均一化する必要があります。また、受け入れ家庭が言葉の問題で外国人を敬遠する場合もあり、啓発や受け入れ体制の整備が必要です。

【将来展望】

今後、小学生、高校生、一般の方を対象に民泊の受け入れを広げると共に海外からの受け入れを広げ、物産販売等で地域の活性化に繋がっていきたく考えています。また、甲賀忍者発祥の地として、忍者を素材とした外国人観光客の呼び込みを検討しています。



豊かな湧水と自然景観の里山でレストランと宿泊施設を開設し地域を活性化
(株)ラシーヌ・ホーム針江(滋賀県高島市)

【取組概要】

滋賀県高島市新旭町針江地区は、比良山系の伏流水の湧き水「生水(しょうず)」を生活に利用する台所「川端(かばた)」の伝統を江戸時代から守り続けている数少ない地域です。また、この地区は国の重要文化的景観や、平成の名水百選などに選ばれており、水温約13度の川には、日本固有種である「バイカモ(梅花藻)」の生育が見られます。



(株)ラシーヌ・ホーム針江は、観光客等をもてなして地域を活性化しようと、地元「針江生水の郷委員会」の協力を得て、平成27年8月、ショップ、レストランと宿泊施設を開設しました。

ショップではジーンズを中心としたアパレル商品と、地元の発酵食品やお酒を中心とした物販コーナーを展開しています。

レストランには、湧水を使った池と水路があり、店内にも水路が流れています。また、地元の野菜、米、琵琶湖魚などの食材を使った料理を提供しています。



宿泊施設は、湧水を使った入浴設備があり、現在、客室6室、定員23人で、27年8月の開設から約1か月間の宿泊者数は約60人、うち外国人は5組約20人です。

観光客には、針江生水の郷委員会と連携し川端見学ツアーなどの案内を行なっています。なお、施設開設に当たって、地元から正社員3人、アルバイト7人の雇用を生み出しています。

【取組推進のポイント】

インターネットで情報発信を行い、外国人には英語、中国語が出来るスタッフ数名が対応しています。また、店内に英語の案内板を掲示しています。

【課題】

インバウンド対応のため外国人向けのパンフレットを作成すること、他の体験ツアーと連携し集客を拡大すること、案内看板を設置することなどの課題があります。



【将来展望】

旅行業者と連携した集客を考えています。現在は、一般旅行者、バックパッカー及び研修客も視野に入れた宿泊施設ですが、年内に和室でやや高級な宿泊施設の増築を予定しています。また、酒造会社との連携により地酒のブランド化、発酵食品の販売強化を検討中です。

農作業と日本の田舎暮らし体験を満喫できる民泊事業
NPO 法人 愛のまちエコ倶楽部(滋賀県東近江市)

【取組概要】

東近江市愛東地区は、米・麦・大豆のほか、なし・ぶどうなどの果樹栽培も盛んな地域です。平成 10 年から琵琶湖の環境保全を目的とした「菜の花プロジェクト」に取り組み、更に地域全体の活性化を目指していこうと、16年に「NPO 法人 愛のまちエコ倶楽部」を設立しました。



同倶楽部では、米や果樹栽培の農作業から味噌やお茶の加工までの「田舎もん体験」事業に取り組み、東近江市の「体験交流型旅行協議会」事業への参画を契機に 24 年に「愛のまち民泊推進協議会」を組織化し、主に中学校の体験学習旅行の受入を開始しました。これまでに延べ 300 人程度を受入れてきましたが、同市協議会事業や直接の申込などによる海外の学生も受入れており、これまでに韓国 48 人(24・25 年度)、ノルウェー 54 人(24・26 年度)、ベトナム・フィリピン 48 名(26 年度)の実績があり、27 年度もインドネシアからの受入を予定しています。

【取組推進のポイント】

受入家庭(40 戸程度)のほとんどが農家であり、かつ 2～3 世代同居の家庭が多く、常時 20～30 戸の受入家庭を確保しています。このうち農家民宿は 5 戸で、他は市の研修受講を条件に民泊を認可されています。英語と韓国語の案内用ガイドを配布し日常の対話に対応しています。



また、民泊事業であることから食事は共同調理、食材の収穫も共同作業で行っており、農家の普段の暮らしを体験してもらっています。

民泊の受入が決まると、数日前までに有線放送で地域内にお知らせするほか、地元のケーブルテレビやFMラジオ放送の取材を通じて認知度を高めて、受入農家の確保に努めています。

【課題】

受入家庭の年代層は 40～70 歳代となっていますが、中心は 60 歳代であり、事業継続のためにも近隣地域も含めた理解と協力の確保に向けた広報活動の展開が必要です。

【将来展望】

現在の受入依頼のある団体との連携を継続するのに加え、この地域には百済寺や石塔寺など韓国文化との結びつきが強い名所があることから、さらに日韓交流による事業展開を図っていきたいと考えています。



地域ブランド「近江牛」の生産・加工・販売及びレストランでの提供
農業生産法人千成亭ファーム（滋賀県彦根市）

【取組概要】

彦根市は国宝・彦根城を有し、ブランド黒毛和牛である近江牛とのゆかりも深い地域です。

この地域において近江牛の肥育経営を行っている農業生産法人千成亭ファームでは、同ファームで生産した近江牛の加工販売を行っており、系列会社の千成亭を通じて消費者に販売しているほか、近江牛を専門に扱う同社のレストランで提供しています。



近年、彦根城への外国人旅行客の増加に伴い、同社のレストランの外国人利用者も増えてきたことから、平成25年から英語のメニュー表を作成し、中国語、韓国語のメニューも作成中で、外国人旅行客への近江牛のPRを行っています。

また、平成25年1月からシンガポール向けへの近江牛の輸出を行っています。

【取組推進のポイント】

近江牛の生産から加工・販売、レストランでの提供を一貫して実施しています。

飼料には滋賀県産のわらを使って差別化を図っています。



【課題】

平成25年1月からシンガポール向けに近江牛の輸出を開始しましたが、相手国先ではステーキ向けとして、ロース、ヒレの精肉処理の必要のない特定部位のみの要望が多いが、供給の面から1頭フルセットでの輸出を行いたいことから、現在輸出については、思うように進んでいない状況です。



【将来展望】

ロース、ヒレはスジや脂肪の精肉処理（トリミング）が比較的容易ですが、他の部位は1つの部位でも肉質（硬さ）が違い、商品化に当たっては、細分化する精肉処理技術が必要となることから、近江牛の輸出に当たって、1頭フルセットで輸出するためには、相手国先に対し、これらの精肉処理技術の指導やステーキ以外のすき焼き、しゃぶしゃぶ等の調理方法の提供が必要と考えており、今後、これら技術等の提供と合せた近江牛の輸出促進を図っていきたいと考えています。

農家民泊、農業体験旅行者の受入れ体制を完備
(一社)近江日野交流ネットワーク(滋賀県日野町)

【取組概要】

滋賀県日野町では、農林業等の生業に対する地域住民の自信と誇りを回復し、元気な地域づくりをするために、平成20年、町や観光協会、商工会、農協、農業者等で構成する「三方よし!近江日野田舎体験推進協議会(事務局:日野町)」を組織し、農村生活体験民泊の取組を行っています。



21年には、県下初となる体験型教育旅行の受入れを行い、これまで延べ13,690人を受入れています。

22年から海外からの受入れも行い、JENESYSプログラムによる受入れとして中国、フィリピン、インドネシア、メコン5カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー)等から延べ302人、ビジットジャパン事業による受入れとして中国、台湾、香港から延べ71人、視察・研修旅行として中国、韓国、台湾、マレーシアから延べ410人、これまで延べ783人を農村生活体験民泊で受入れています。

三方よし!とは、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の近江商人の精神。「迎えるもの(売り手)に自信と誇りの回復」、「来訪者(買い手)に心から感動」、「地域(世間)に人的・経済的活性化」
JENESYSプログラムとは、東アジアの青少年を日本に招へいし、相互理解と友好関係の促進を目的とした日本人青少年、市民との交流プログラム事業です。
ビジットジャパン事業とは、訪日外国人旅行者の増加を目的とした訪日プロモーション事業です。



【取組推進のポイント】

町長を先頭に町としてのバックアップ体制ができており、現在、150戸の受入家庭を確保し取り組んでいます。

京都市から車で約90分の交通アクセスという地の利点を活かし、京都への修学旅行者約100万人をターゲットとして、大手旅行会社への営業活動を行っています。

【課題】

年々高齢化が進む農業地域の中で受入家庭の確保と農村生活体験の指導者の資質向上を図っていくことが必要と考えています。

また、農山漁村のがんばりが活きる支援として、組織運営への財政支援が必要と考えています。



【将来展望】

都市農村交流の形態のひとつである体験型観光を受け入れることにより、地域に対する自信や誇りを取り戻し、「元気な地域、まち、農林業」の実現に向けて取り組んでいきます。その中で、訪日外国人の受入れにも取り組んでいきます。

「つくる・食べる・つなげる」により外国人旅行客の増加を目指す
JA おうみ富士ファーマーズマーケットおうみんち（滋賀県守山市）

【取組概要】

JA おうみ富士の管内は守山市と野洲市にまたがっており、鈴鹿山系から湧き出る豊富な伏流水と肥沃な土壌、さらに夏にはホタルの飛び交う豊かな自然環境の恩恵を受けて、米、メロンやいちご等の果物、野菜、花き等さまざまな農産物が生産されています。また、野洲市においては環境に配慮した農業（ゆりかご水田）も行われています。一方で、京阪神中心部まで1時間程度と通勤にも便利であることから、ベッドタウンとして人口が増加している地域でもあります。「ファーマーズマーケットおうみんち」は、このような好条件を活かし、ワンストップで地域の農産物や加工品を販売する「直売所」と食育も兼ねた地域の食事をバイキング形式で提供する「レストラン」を併設した施設として平成20年にオープンしました。



この施設には、守山メロンの販売時期（5～7月）を中心に毎年45万人から47万人が訪れ、近年外国人旅行客も増加しています。また、出荷者の意識が高く品質と品揃えを維持した上で比較的安価で販売できていること、各地でのプロモーションや商談会への参加を通じて知名度が向上していること等により、総売上高は5年連続で10億円を超えています。加えて、23年度から農産物を畑から直接収穫する「畑の直売所」を開催したのをきっかけに、25年からはグリーンツーリズムの取組を本格化させ、都市と農村を結ぶ事業「もりやま食のまちづくりプロジェクト」の中心主体となって参画し、地域全体の取組としています。

このような実績もあることから、26年度には約2,400人（うち海外から55人）が視察に訪れており、近年は海外からの視察も増えています。



【取組推進のポイント】

当初のコンセプトは「つくる」（地元産食材の需要拡大等）と「食べる」のみでしたが、「つなげる」（次世代への食育推進等）取組を進めることで、都市と農村の交流が活発となり、近隣からの買い物客以外の観光客や立ち寄り者、ひいては外国人旅行客の増加にもつながっているものと考えられます。

【課題】

冬場の食材調達に難しい時期の国内ツーリストや外国人旅行客には「NABE」（鍋）を「キーワード」としたおもてなしを始めましたが、特に農業体験を希望する外国人旅行客の受け入れに当たっては、安全面の確保が必要であると同時に、万が一の時を想定し、保険の加入状況やアレルギー、食文化等の個人情報などを把握し、また緊急時に対応可能な病院を事前に調べておく必要や短時間滞在での満足度を向上させる地域が連携した取組検討が必要であると考えています。

【将来展望】

地域におけるおもてなしの中から、外国人旅行客が「手に取った」、「美味しいと言った」商品を中心に帰国後の輸出につながることも見据えて海外市場向けの商品開発を行っています。訪れた外国人旅行者から率直な意見を聞き、次のおもてなし商品づくりに挑戦したい。